

生命を取り扱う博物館としての大淀川学習館がもつ機能の拡充

大淀川学習館 大淀川学習館 宮崎大学教育文化学部
副館長 渡木 秀明 主任主事 日高 謙次 准教授 棕木 香子

研究成果の概要：本稿では、生命を取り扱う博物館としての大淀川学習館がもつ機能の拡充という観点から、小学校道徳授業における教材開発について報告する。教材は、大淀川学習館で飼育しているアカメにスポットを当て作成し、児童の自然愛護や生命尊重に関する道徳的心情の育成を目指した。作成した教材は、検証授業を行い、有効性を確認した。

1. はじめに

大淀川学習館は、協会施設の中で唯一生命を扱っている館である。様々な生体について、展示やふれ合いの場を提供しながら、大淀川の河川環境への意識啓発に努めている。

一方で、『学びの場としての大淀川学習館』にも力を入れており、学校対応事業を中心に、理科や生活科の学習に役立つプログラムを開発、提供し多くの学校から好評を得ている。

平成 25 年度に、館で飼育していたアカメが寄生虫の被害により死亡する案件が発生した。大きなアカメは、大淀川学習館のシンボル的存在であり人気も高く『大きなアカメはどうしたのか』という声を多くの子どもたちから受けたことになった。

この経験を、生命を取り扱う博物館としての大淀川学習館がもつ機能拡充のチャンスと捉え、自然愛護や生命尊重の視点から、道徳の教材を開発することにした。

小学校学習指導要領¹⁾にあるように、『地域教材の開発や活用』『地域社会との相互連携』は、学校にとっても重要事項であり、

協会が推進する博学連携を、更に一步、前に進めることもできる研究内容である。

2. 教材の開発

2.1 対象

対象は、小学校低学年（第 1 学年及び第 2 学年）にした。小学生は、生活科や理科、総合的な学習の時間等の学校利用に加え、休日における家族利用も多く、また、生き物に関する興味・関心が高い時期でもあり、本研究を行う上で最も適当である。

2.2 小学校第 1 学年及び第 2 学年における自然愛護や生命尊重の取り扱いの整理

小学校の道徳の時間の指導内容は、次の 4 つになっている。

- 1 主として自分自身のこと
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

1～4 の内容は『内容項目』から構成されており、内容項目は、学年段階（第 1 学

年及び第2学年、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年)により異なる。

今回対象とする第1学年及び第2学年の『3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること』の内容項目は、次の3つになっている。

- (1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。
- (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
- (3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。

本研究では、内容項目(2)に相当する、郷土の自然愛護や生命尊重に関する教材を開発した。

2.3 資料の作成

小学校第1学年及び第2学年(以下、小学校低学年)向けの読み物資料を作成するにあたっては、次の3点に留意した。

- (1) 事実に基づいた内容にすること
- (2) 適切な表現を用いること
- (3) 文章量を抑えること

(1)について

アカメの死亡事案を取り扱う内容にした。小学校低学年では、たとえ生命尊重の内容項目であっても生き物の『死』を扱うものは少ない。しかし、今回は、事実に基づく上でも、また、生命を取り扱う館の使命としても、あえて死を扱うこととした。

主人公に小学校低学年の女の子を設定し、女の子がアカメや大淀川学習館職員との交流を通して、生命尊重や自然環境保全の精神に気づく内容にした。

(2)について

小学校低学年の児童は、動植物に対して

も心で語り掛けることができる優しさをもつ。また、動植物との触れ合いや、魅力的な読み物等により豊かな感性が育つ時期である。

資料は、発達の段階を考慮し、文章はもちろん、イラストや写真、ICTも有効に活用するなどし、児童の実態に即したものを作成した。

(3)について

この時期の児童は、資料が長すぎると、内容理解が難しかったり、場面状況を忘れてしまったりする。また、小学校の授業は1コマ45分である。児童は、45分という限られた時間の中で、資料内容を把握したり、発問(教員による児童への問い合わせ)に対して自分の考えをまとめたりする。

最も大切な時間である『児童が考える時間』の確保のために、文章量は極力抑えた。

2.4 指導案の作成

指導案は、検証授業を行う宮崎大学教育学研究科教職実践開発専攻(以下、教職大学院)の学生2名を含めて作成した。

指導案は、教員が授業を行う際に作成する計画書のようなものである。道徳の授業の指導案は、授業のねらい(目指す道徳的価値)、ねらいに対する現在の児童の実態、取り扱う資料内容、授業の目標、授業の流れ(指導過程)等からなる。

道徳の指導案(授業)で大切な部分は発問であり、ねらいとする道徳的価値について、どのような発問で気づかせ、どのような発問で深く考えさせるかが重要である。

本授業では、主人公みさえちゃんの

- (1)好きなアカメに会いたい気持ち
- (2)大好きなアカメが死んでしまったこ

とを知った時の気持ち

(3)大好きだったアカメのお友達がすむ
きれいな大淀川を見た時の気持ち
という3つの気持ちを考えさせる発問を用
意した。

ワークシート（児童が自分の考えを書き
込むプリント）は、表に発問(3)に対する自
分の考えを、裏に授業の感想を書くものを作成した。

資料の提示は、児童の発達の段階を考慮
し、プレゼンテーションソフトや動画、挿
し絵を使った読み聞かせ方式で行うことによ
った。

発問に関する資料場面は、挿し絵（場面
絵）を用いてじっくりと押えることにした。

2.5 指導案の検討

指導案の検討は、最終的に、教職大学院
の授業の一つである道徳教育学習開発研究
を行った。

模擬授業（児童役を配置し、指導案通り
に授業を行ってみる）を行い、資料の提示
方法や発問、場面絵等について検討し、い
くつかの修正を行った。

最も重要な修正は、資料の最後にみさえ
ちゃんが日だかさんと一緒に見たものが、
単なる『きれいな大よど川』ではなく、『大
好きだったアカメのおともだちがすんでい
るきれいな大よど川』であることをしっかり
児童に把握させる工夫であった。

この点については、該当する場面絵にア
カメのおともだちの絵を追加し、視覚でも
訴えることで改善を図った。

3. 教材の検証

学園木花台小学校藤崎健二校長先生のお

取り計らいにより、平成27年1月16日に
同校1年生学級において、開発した教材の
検証授業を行うことができた。

3.1 児童の様子

授業中の児童は、次のような様子であつ
た。

- ・内容は概ね把握できていた。
- ・『死』について過度の反応を示す児童はい
なかつた。
- ・大淀川学習館は知っていても、大淀川が
どこにあるか、どの川なのか理解できて
いない児童が多かつた。
- ・大淀川学習館を利用したことがあると答
えた児童は、学級24人中15人で62.5%
であった。利用したことがあると答えた
児童は、全員がアカメを知っていると答
えた。（授業後の児童への聞き取りによ
る）

3.2 児童のワークシート記述

授業後に児童から回収したワークシート
には、次のような記述があった。

発問：大よど川を 見たとき みさえ
ちゃんは、 どんな きもち だ
ったかな。

- ・アカメってこんなきれいな川にすんでい
たんだ。
- ・しんじやったアカメ、かわいそう。もと
はおおよどがわでげんきいっぱいいくら
していたんだな。
- ・うれしいきもち。またアカメのともだち
とともにだちになろう。
- ・アカメにもういちどあいたいな。てんご
くにいてもわすれないからね。だからア
カメさんもわすれないでね。
- ・こんどはきれいな川にいってアカメをみ

よう。

※24人中22人の児童が、アカメに対する優しい心の内を記述していた。他2名は『まだいてよかった』という内容であった。

感想：きょうの おはなしを きいて
おもったことを かこう。

- ・アカメはずっとおおよどがわでげんきいっぱいくらしていくためにはおおよど川のみずをきれいにしないとアカメはいきていられないんだな。
- ・ちょっとかなしかったけど、さいごがかんどうしました。ぼくもおおよどがわにいってみたいです。
- ・またすいそうにおともだちがくるならはやくあいたいな。またアカメのすいそうにいってひだかさんにアカメのことをいろいろおしえてほしいな。

※『悲しかったけど最後は良かった』と述べた児童が多かった。大淀川の保全意識の高揚が感じられる記述や、女の子の心中を察する記述も見受けられた。

4. 成果と課題

4.1 成果

(1)開発した教材の有効性について

児童の発表やワークシートには、授業で目指した自然愛護や生命尊重に関する道徳的心情の育ちが見受けられた。今回開発した教材が有効であることが確認できた。

(2)大学との連携について

学術機関である宮崎大学教職大学院と連携し、より質の高い研究を行うことができた。

4.2 課題

(1)教材の配付について

授業に必要なものは、資料・指導案・場面絵等全て準備できている。今後、各学校に配付し、活用頂く環境を整備する。

(2)新たな教材開発について

小学校中学年、高学年用の教材開発も進めている。これらについても完成を目指す。

(3)大学との継続的な連携について

教職大学院との連携を継続していくためにも、Win-Winの関係づくりを目指す。

5. おわりに

協会は、博学連携の取組を推進している。博学連携に取り組むにあたっては、協会各館が学校と連携した探究的な学習活動の場であることに加え、命の大切さを実感できる場であることを重要視している。

本研究は、大淀川学習館のもつ機能の拡充について、生命尊重や自然愛護という観点から、小学校と館・大学と館という2つの博学連携の要素を盛り込み行った。

今後も、館の機能拡充の可能性について、あらゆる分野で追求していきたい。

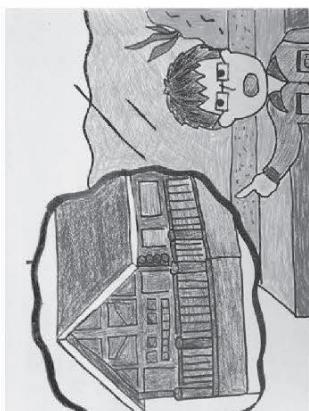
6. 引用・参考文献

1)文部科学省 (2008). 小学校学習指導要領

【謝辞】

本研究に対し、多大なご協力を頂きました学園木花台小学校の藤崎校長先生、尾崎智子先生をはじめとする先生方、児童のみなさん、宮崎大教職大学院の古谷真唯さん、日高愛権音さんに厚く感謝申し上げます。

資料『みさえちゃんのすきなもの』と挿し絵（場面絵）



みさえちゃんの すきもの

みさえちゃんは 大よど川学しゅうかんによくあそびに いきます。大よど川学しゅうかんでは いろんな生き物のを ちかくで 見るところが できます。みさえちゃんは その中でも 大きな やかなの あかめが 大すきです。

ある 日 ようびの ことです。みさえちゃんは おばあちゃんに 学しゅうかんにつれてきて もらいました。

みさえちゃんは いつもより 大すきな あかめがいる 大きな すきもの までに カきました。

「あれ。こかくわあ。おくに いろのかな。」

みさえちゃんは 水そうの おくから あかめが でてくるのを まちました。それでも あかめは でてません。

しばらくすると しゃくじんの 日だかちゃんが カきました。日だかちゃんは いつも みさえちゃんに あかめのことをおしえてくれます。

「大きな あかめは どうしたの。」

みさえちゃんは 日だかちゃんに カヤキしました。

「びょうせいになつて しんでしまひただんだ。」

日だかちゃんは ャみしきうに こらました。

「みさえちゃん、あの あかめは おかし おともだちと こじょに きれいが 川に すんだいたんだ。その 川が 見える ばしばがあるよ。」

「じょうがの？」

みさえちゃんは びっくりして カヤキました。

「あそこに 見える すきの いえだよ。こじょに こりた。」

みさえちゃんは 日だかちゃんと すきのいえに こやきました。

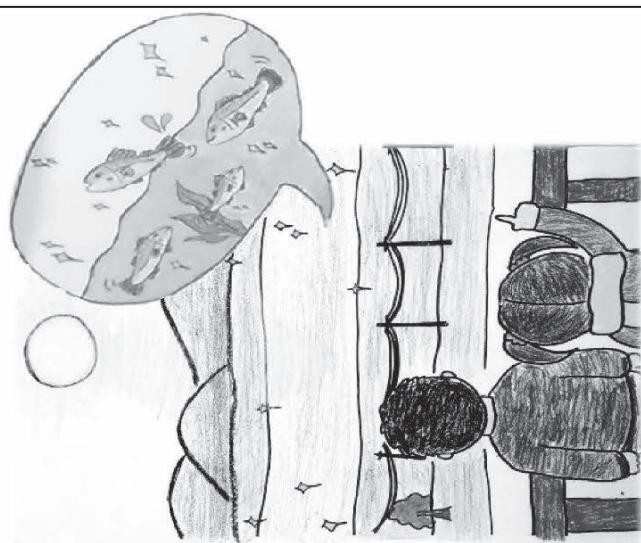
※太陽の光が キラキラ光る 大淀川の映像を流す。

「わあ」

すきのいえの まどから たこようの ひかりが キラキラ ひかる 大よど川が みえました。

「あの 大よど川に あかめが いたの？」

「そうだよ。あの きれいな 大よど川には あかめの おともだちが 今も たくさん すんでいるんだよ。」



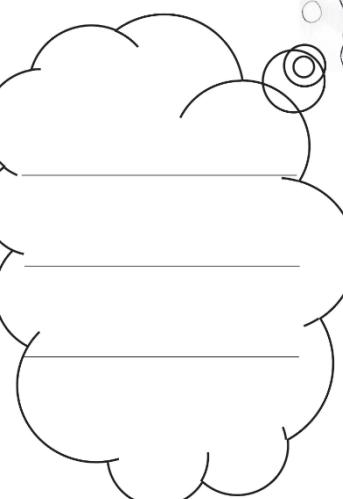
指導案の指導過程部分とワークシート

授業目標		指導上の留意点	準備物
導入	学習活動 子題される原風景の見出し	○ 自分が好きな動物について話すことで、登場の生きちゃんと人の気持ちに共感するようにする。	
5分	1. 本日の内容について話し合う。 ○ 自分が好きな動物について語る。	○ 実物大の写真を見てることで大きなアカメという魚について話すことができるようにする。	人気アカメのアクリメ(写真) 人気川の写真
25分	2. 資料を読みて答える。 遡り今まで活用を信じ、 ○ 大好きなアカメがいる水槽の写真を見たが、みちゃんはどんな気分がだったか? ・資料の書き込みを読む。 ○ 大好きなアカメが、静気で死んでしまったと聞いた時、みちゃんはどういう気分が生まれただろうか。 ・資料の書き込みを読む。 (※途中で映像を渡す。)	○ アカメのことが人好きで、会いたいという気持ちが高まっていることをおきており、アカメへ何んでしまったときに聞いたのがきちゃんの気持ちに寄り添うことができるようになる。	ライド 補助
終業	① すぐの家から大淀川を見た時は、みちゃんは、どちらなことを思っていた。 (補)今、人気記にはアカメの活躍地がたくさんいるよね。でも、大淀川がきれいやくなってしまった、アカメたちはどうなるかな? ② 3. 今日の授業を振り返る。 ○ 思いを文面にする。	○ 魚類を育てる上で、みちゃんが大淀川の気持ちを見せることができるようになる。	根鶴前 数珠 人気川の写真 ワークシート
15分		○ アカメがおねじり川に住んでいたことを知った時の気持ちをえさちゃんの気持ちをえさしだる。アカメの気持ちだけではなく、そのアカメの気持ちをどうぞく、仲間意識について等覚えることができるようになる。	
		○ 本日の内容を通して見たことを自然の口にたくさんの心があることに気づき、自然や生き物に対する愛着を育めたり、人に自分の経験を語り合ったりすることができるようになる。	
		○ 思いを文面する。	○ 思いを文面することで、意識が自然の口にたくさんの心があることに気づき、自然や生き物に対する愛着をもつことができるようになる。

1.みちえかやんの すきなモノ

ーねんーくみ

★ 大淀川を見たとき みちえかやんは、
どんな きもち だつたかな。



★★ まちつの ねはなしを きて ねむけた ことを かいつ。

